

なぜ私は街頭に立つのか

石地 かおる

今に始まった訳ではないが、「障害者は不要だ」と突き付けられる事件が起きてしまった。

神奈川県相模原市の知的障害者収容施設、津久井やまゆり園で19人もの知的障害者が殺害された。その方法はナイフでの滅多突きというものであり、現場は血塗れの状態という冷酷極まりない残忍さであった。

私は、2016年7月26日早朝、インターネットで事件を知った。その瞬間、このニュースは映像で見てもはならないと咄嗟に判断した。視覚から入ってくる情報に耐えられる精神力が自分にはないと感じていた。まるで、今から書き綴ろうとしていることを予期していたかのようだ。

私が障害者解放運動に身を投じて二十数年、「障害者

は社会のお荷物だ」「税金の無駄遣い」「生まれてこない方が幸せ」「本人のために死なせてあげた方が良い」などと言って、障害者の幸・不幸・生き死にが本人不在のまま第三者によって決めつけられ、人権や命が奪われる事件は後を絶たなかった。

私自身にも、障害者運動に出会うまでには、自分は社会の役に立たない、無駄な人間だと思いつまされ、健常者への強いあこがれと自分の変形した身体のギャップにもがき苦しんだ時代があった。やまゆり園事件は、その誰の内にも無意識に深く染み付いた優生思想が引き起こした。容疑者が殺害行動に出ってしまったことは許されることではないが、私は容疑者が特別に極悪非道な人間だとは思わなかった。なぜなら、容疑者の犯行声明にある内容は、私たち皆のうちに潜んでいる。

る優生思想と何ら変わりないからだ。多くの人は障害者を見て「かわいそう」「あんなになつて生きるなら死んだ方がまし」と思っている。容疑者も善意から障害者を殺してあげたのだ。それが税金の無駄遣いを食い止め国益のためになると信じて疑わなかったのだ。

私は、まったくの無関心層、容疑者を異常者扱いすることでのこの事件を解決しようとする層に、やまゆり園事件の本質を訴えなかった。よくわかり合える人々と集会を持つことではなく、障害者とは無縁の民衆に障害者である自分を晒すことで、何かしら印象付けられるのではないかと考えた。「私は怒っている。私を殺すな。」と叫びたかった。それが「リメンバー7・26神戸アクション」だ。

事件から一ヶ月経った8月末、三宮の駅前に立つてやまゆり園で何が起こったのか、なぜこんなにも悲惨な結果を招いたのか、容疑者の犯行声明の内容は誰の心にも潜んでいることなどを訴えた。また、声明文を不特定多数の人々に配布した。SNSの呼び掛けで40人余りもの障害者・支援者が集結し、道行く人々の優生思想に呼び掛けた。

このアクションは、それ以降毎月行ってきた。少ないときでも20人程度の障害者・支援者が毎回集まっている。しかし、時を重ねるごとに、やまゆり園事件はものすごいスピードで忘れ去られて行く。人々はまったく何の関心も示さない。見ない振りをして避けて通り過ぎて行くのだ。

やまゆり園事件では、殺害された19人の障害者について匿名報道とされ公表されることはなかった。「19名」という記号で表されただけだ。遺族と本人への配慮とされている。これだけの殺人事件でありながら名前を公表しないなどという事件がこれまでにあったらどうか？私には、三宮駅前に立つ私たちを見て見ぬ振りをする人々の心と、匿名報道にせしめた心理は重なっていると感じる。つまり、この社会には障害者はいないのだ。まだ一度も存在していない。「差別するな」と叫ぶ前に息の根を止められて、なかったことにされる。透明人間として浮遊しているだけだ。当事者の私がそう感じているのだから、誰にも否定はできない。障害者差別が、どれほど残酷で根深いかが見てとれる。

さらには、19人も人間が殺されたのに、この事件の原因として介護労働の過酷さや収容施設の劣悪な環境問題ばかりが取り沙汰され、容疑者を弁護する者まで現れた。もしも、このようなテロがデパートや学校で起きて、19人の健常者が殺害され、名前が公表され、一人ひとりの生き様が報道されていたら、社会の人々は、死者に対して心からの同情と悲しみを寄せて彼らの死を悼むだろう。ところが、19人も障害者がこのような惨たらしい殺され方をしても、その同情は容疑者に向けられるのだ。介護・介助が過酷であれば、障害者は殺しても構わないのだ。そんな身勝手極まりない考え方が許されて良いのか？

残念ながら、この社会では障害者の命というものはその程度のものである。「馬鹿にするな」と叫んだところで、我々は透明人間なのだから。

親兄弟らが「介護疲れ」と称して障害者を殺す事件は、障害者差別解消法が施行された現在もその数を増すばかりだ。そして、殺人を犯したにもかかわらず「介護疲れ」が同情の鍵となつて、事実上無罪になるケースがほとんどだ。

いずれも、世話をする側の身勝手な思いでしかない。

レットルを貼り返してやりたい。出生前診断を治療と呼び、女性を軽視しその弱みに付け込んで障害児を堕胎させたり、着床前診断で受精卵を選別し受精卵を破壊したりする者たちは、自分の罪をどう説明するのだろうか。

究極の障害者差別・ヘイトクライムである出生前診断にも長年反対の意を唱えてきたが、とどまるどころかますますエスカレートし、妊娠中にダウン症だとわかった胎児の96%が闇に葬られている。日本の法律では障害を理由とした中絶は認められていないのに、医療の名の下、公然と行われているのだ。これに対して、出生前診断に反対する障害当事者たちは「障害があっても幸せだ」と主張してきた。私も不本意ながらそうしてきた一人だ。なぜ、ことさらにそのようなことを言わなければならないのか。障害者は「幸せだ」と連呼し続けなければ殺されてしまうからだ。健常者は、こんなにも恐ろしい生存の危機を感じながら生きてはいないはずだ。障害者にとって、この社会はまだ戦時中なのだ。

マスコミは、やまゆり園事件の容疑者は精神障害者

殺された障害者に対しては、誰一人その命の重さや尊さを語る者はいない。

このことは、70年代から青い芝を初めとする障害者解放運動が繰り返して訴えてきたが、障害者の命が健常者のそれと同等のものとして扱われることはなかった。これらの世論形成は優生思想がなせる業であるが、このことが障害者の人生をどれほどまでにずたずたにし人間性を破壊していることか考えてもらいたい。

「リメンバー7・26 神戸アクション」で介護労働の問題を話す人が現れたとき、私は厳重に注意した。その後は、容疑者に思いを寄せる者や介護労働問題にすり替える者が出ないよう、配布資料を用意して徹底的に食い止めた。「殺された障害者に目を向けろ！」と叫びたかった。

私は、出生前診断による障害児の堕胎と尊厳死についても、やまゆり園事件と同じ差別だと思っている。つまり、役に立たない障害者は不要なのだ。人間ではない。だから、やまゆり園事件を実行した容疑者が、極悪人の異常者だとするならば、出生前診断・尊厳死に賛成する人々には、そっくりそのまま「極悪人」の

だったというヘイトを垂れ流した。そのヘイトは国を挙げて強化され、事件再犯防止のためと称して精神障害者を隔離・管理する法律、精神保健福祉法改正案が可決されようとしている。

どこまでも、どこまでも、人を人として扱わない愚かしい国だ。強制的に入院させられた精神障害者は、退院しても個人情報すべてが警察にまで手渡されマークされ続ける法律だ。そんなことで再犯防止になると本気で思っているのか。

これもまた、健常者が精神障害者を危険物扱いして、支援の名の下、精神障害者を根こそぎ排除してしまう法律なのだ。

治安維持のために、精神障害者を隔離・管理するので。

そして、精神障害者が知的障害者を殺した残忍な事件として片付けられることで、我々障害者は障害の種類によってばらばらにされ、障害者間での差別がより増幅させられ、憎み合わされ、切り離される。

異常者という存在を作り上げて、やまゆり園事件を解決したとする発想はあまりにも短絡的すぎる。

やまゆり園事件は、戦後最大の殺人事件だ。しかし、殺されたのが障害者だったために大規模殺人事件としては騒がれなかった。

なぜ、19人ものが、たった一時間足らずの間に血みどろにされて殺されてしまったのか？

その理由は、介助する者の合理性や利便性を重視した大型施設に障害者を隔離したことにある。一人ひとりが地域の中で人間性を重んじられる生活ができていれば、このような大惨事を生まずに済んだ。手のかかる障害者は、地域で暮らすことは不可能だと誰が決めたのだ。施設に暮らす障害者が自ら望んで隔離される訳がない。親が社会が地域にいてほしくなかったのだ。分離教育で障害児と健常児を切り離したのも同じだ。障害児には普通学校に来てほしくなかったのだ。散々排除しておいて、施設の方が安心して暮らせるのだの、支援学校の方が本人の能力に合った支援教育を受けられるのだの、なんと傲慢な理屈なのか。

やまゆり園事件が、障害者排除・健常者との分離は失敗であったと物語っているではないか。

このまま人が人を排除する社会を肯定し続けて、私

たちは何処へ向かいたいのか？

今の私にできることは、自分の障害をしつかり直視して「私を殺そうとしておいて、なぜ平然としてられるのだ？」と問い続けることだ。

そして、障害を理由に殺されていった多くの障害者を忘れないことだ。

石地かおる（いじし・かおる）

1967年生まれ。一歳半で、脊髄性進行性筋萎縮症と診断される。24時間介助が必要な重度障害者。養護学校高等部を卒業後、親元での在宅生活を10年余り余儀なくされる。1998年、神戸市で他人介助を入れて自立生活をスタート。現在、自立生活センター・リングリング事務局長、神経筋疾患ネットワーク（出生前診断に反対する当事者団体）運営委員、リメンバー7・26神戸アクション呼び掛け人。